

日時	2025年6月25日（水）14時30分～16時00分
場所	一宮市役所 1103会議室
出席者	委員13名（鈴木、伊藤（裕）、土川、長谷川、鬼頭、原、五藤、伊藤（之）、芳賀、花村、江藤、内藤、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 報告事項

- (1) 2025（令和7）年度 前期休日地域クラブ活動・実施状況について
- (2) 民間企業による実施団体の運営サポートについて
- (3) 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめ

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・本年度は14種目、活動箇所は45箇所に増え、指導者約190名、参加者は1750名まで増えた。活動成果として、バレーボール部のない学校のチームで地域移行部活動として初めて中小体の大会に出場予定。ほかにも各実施団体で成果発表の場を設けている。全実施団体の78%が連絡ツール、65%がオンライン集金システムを利用している。現金取扱いの手間削減、領収書発行が不要となった。課題は保護者の引落登録に時間がかかること、引落不能時の個別対応、団体側の口座開設の必要があること。
- ・民間企業と業務委託契約を締結。全指導者対象の研修会を7月実施予定。団体が必要とする賠償責任保険等の紹介、指導者への支払いにかかる源泉徴収サポート・書式提供、事務局業務支援として、参加者募集、保護者からの問い合わせ対応の補助を委託している。
- ・指導者・実施団体の確保と認定の仕組み整備。平日を含めた改革推進。困窮家庭への支援のあり方の検討。事務局事務の仕分け、持続可能な運営体制の構築。の4つが今後のポイントとなる。

4 議事

(1) 実施団体・指導者の確保に向けて

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・募集チラシを作成し、4月に全小中学校のPTA総会で配布。5月時点で40名の応募があり、マッチングを進行中。市内各学校への調査により、学校独自の地域クラブがいくつか活動をしていることを把握した。今後、これらの団体と情報交換し、学校以外の生徒受入拡大の可能性を協議していく。7月に地域づくり協議会への説明・呼びかけを予定。民間のニッケインドアテニス、いちい信用金庫、東邦ガスとも協議中。
- 今いる指導者に協力を呼びかけるだけでなく、指導者を育成する機会を設けていただけるように各スポーツ・文化団体へ依頼していくことも、指導者確保につながるのではないかと。
- 年1回のチラシ配布だけでなく、頻度を上げて募集すべき。大会出場を目標とする活動を求める声もあるが、「楽しみたい」だけの子どももいる。大会を目指すコースと、楽しむコースを分けるべき。
- 学校独自の活動を地域展開のキーワードとして捉え、拡大していくべき。男子バレーボール部のように、学校に部活動がなくても大会に出場できる事例は、子どもたちの参加意欲を高める。
- 文化系活動も推進すべき。高校生や大人も活動に参加し、後輩の指導やロールモデルとなることで、活動内容の充実と安定に繋がる。

(2) 改革実行期間におけるロードマップについて

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・令和8年～13年の6年間で「改革実行期間」とし、前半3年間で課題を洗い出し、後半3年間で改善を図る。この期間で生徒数が約1割減少する見込み。平日はしばらく教員の勤務時間内で学校部活動を継続しつつ、指導者確保ができたところから順次地域へ展開。事務局体制と業務の整備として、市の様々な部局や民間企業に業務を分担し、連携を強化。国から示される受益者負担の水準を基に、補助金活用方法、困窮家庭への支援策も検討していく。
- 休日活動の延長として、子どもたちの希望に応える形で、地域団体が自主的にナイター練習（夜間活動）を実施している。これが「平日部活動の地域展開」の現実的な形ではないかと。
- 国の補助金がなくなることへの懸念。地域活動への継続的な補助金と、困窮家庭への明確な支援策の必要性を国へ働きかけていく必要がある。
- 大会参加へのモチベーションがある子どももいる。全国的には大会を減らす方向だが、県や各自治体での対応がバラバラで、現場が混乱している。まずは一宮市の大会をどうしていくかを決めていく必要がある。

5 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

6 閉会のことば